

地域密着サービス運営推進会議 報告書

施設名：グループホーム稗原

日 時：令和7年1月31日(金)

13:50～14:40

場 所：グループホーム稗原 きんもくせいユニットホール

参加予定者：市森自治協会会長 高野 薫様

稗原地区自治会長 柿本 榮様

稗原地区社会福祉協議会会長 三次 眞樹様

喜楽会会長 三成 淳夫様

出雲市高齢者福祉課係長 磯川 朋子様

グループホーム稗原(代表取締役) 守屋 とし子

グループホーム稗原(介護主任) 嘉本 さとみ

グループホーム稗原(管理者・介護支援専門員) 塩野 典子

<議題>

- 1.ご利用者状況
- 2.近況報告
- 3.行事報告
- 4.事故・ヒヤリハット事例報告
- 5.研修・委員会・訓練等
- 6.今後の行事・研修等予定
- 7.意見交換

<議題>

1.ご利用者状況(令和7年1月30日時点)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	1名	3名	1名	0名	2名	7名
女性	3名	0名	2名	1名	1名	7名
計	4名	3名	3名	1名	3名	14名

平均介護度…2.7

平均年齢 …86.4歳(77～94歳)

- ・11/11より入院されていた男性の方(要介護4)が12/4付で退所されました。
- ・12/24に女性の方(要介護1)がご入居されました。
- ・1/6 誤嚥性肺炎にて女性の方(要介護5)が入院され、1/15付で退所されました。
- ・1/10に女性の方(要介護1)がご入居されました。

2.近況報告

現在、2 ユニットで 14 名の方がご入居中です。

日中は 1 ユニット内にて、一緒に体操やレクリエーションを行いながらお過ごしいただいています。

真冬の冷え込みを感じる日々ですが、衣類、寝具、室温等ご利用様が快適にお過ごしいただけるように調整していきます。

インフルエンザや新型コロナ等の感染の流行が見られていますが、現時点でご利用様の感染はありません。引き続き、感染症対策を行ってまいります。

3.行事報告

<12 月 クリスマス会>

12 月 25 日はクリスマス会を開催しました。12 月前よりツリーの飾りつけやホールの飾りつけを行いました。クリスマス会当日はサンタクロースが登場し、プレゼントを手渡しにて受け取っていらっしゃいました。サンタクロースの姿とプレゼントに、皆様とても嬉しそうにされ笑顔になっていました。その後、ケーキを召し上がられ、冬の歌と一緒に歌われました。

普段、表情の変化が少ない方も笑顔を見せて下さったり、一緒に歌をうたわれる姿が印象的でした。

<1 月 書初め・誕生日会>

新年を迎え、三箇日は黒豆やだて巻きなど、おせちのメニューを召し上がられました。

1 月中に書初めをされました。書初めの提案をすると最初は遠慮がちの方が多かったですが、いざ書き始められると真剣な表情になり、集中して取り組まれる姿が印象的でした。

1 月後半には 2 名の方の誕生日会を行いました。ご自分の誕生日会だとわかるととても嬉しそうにされ、皆様にお礼を言われたり、歌をうたうともいつも以上に大きな声で嬉しそうに歌っていらっしゃいました。誕生日会終了後も余韻を楽しんでいらっしゃったため、お祝いをさせていただいて良かったと感じました。

4.事故・ヒヤリハット事例報告

○事故報告

・事例①84歳 男性 要介護3

(内容)

早朝に大きな声が聞こえ居室を確認すると、ご本人様がベッドサイドのセンサーマット上で仰向けになり倒れていらっしやるのを発見する。

(対処)

ベッド上へ戻っていただく。痛みの確認を行うと右股関節周辺の痛みの訴えあり。

バイタル(体温・血圧・心拍数・酸素飽和濃度)測定。異常なし。

主治医へ報告。

(原因)

センサーマットが鳴動せず、ご本人様が起床し移動しようとしたことに気づかなかったため。

その後、センサーマットの鳴動の確認を行うと、受信機のダイヤルが変わっており踏んでも鳴動しなくなっていた。

(ご利用者様の状況)

安静時には、右股関節周辺の痛みは感じられなかったが、体を起こしたりと可動時には痛みの訴えあり。普段は歩行器を使用し歩行されていたが車椅子移動を行う。数日経つと、痛みも軽減し歩行器の使用にて歩行も再開される。

(再発防止に向けて)

- ・センサーマットの受信機のダイヤルが変わっていたため、今後変更等操作を行った場合は必ず職員全体へ周知することを徹底する。
- ・ご利用者様の帰室時には必ずセンサーマットの鳴動の有無を確認し退室する。

・事例②78歳 男性 要介護2

(内容)

独歩の方が、腰に手を添えながら歩行される姿が見られる。声をかけると腰痛の訴えあり。患部を確認するも外傷等なく湿布薬などの使用を行う。2, 3日様子観察を継続していたところ、左肩甲骨～腰部にかけての痛みの訴えあり。再度患部の確認をすると腰部に皮下出血発見。左肩甲骨周辺にも痛みがあるようだが外傷等は見られず。

(対処)

主治医に報告。歩行や移動は可能だったため、湿布薬等の痛み止めを使用し様子観察の指示あり。

(原因)

ご本人様に確認すると居室内の壁を指差され、壁で打たれたという内容のジェスチャーをされる。どのような状況でいつ打たれたのかは、意思疎通がうまく取れず確認できず。

ご自身の意思にてご自由に施設内を移動されているため、いつどのような状況で打たれたのか詳細は不明。

(ご利用者様の状況)

その後、1週間程腰に手を当て歩行される姿が見られたが、徐々に痛みの訴えも減り患部の外傷も新たなものの出現はなく快方に向かわれる。

(再発防止に向けて)

- ・過度な干渉を嫌がられるため、ご本人様の移動時に常に見守りを行うことが困難であるが、居

室のセンサーマットの使用を継続し見守りを強化する。

- ・易怒的なご様子が頻回に見られ、その際は居室内や共用空間の扉など大きな音を立て物に当たるとご様子が見られる。怒りの原因が不明であることが多く、そのようなご様子の際は職員の介入や関わりを拒まれるため、そのようなご状態の時に打たれた可能性もある。普段と異なるご様子が見られた時には、平時以上に注意し見守りを行っていく。

・事例③78 歳 男性 要介護 2

(内容)

昼食後ご本人様が居室のあるユニットに移動され、トイレへ行かれたのを確認したあと 10～15 分経過しても帰室時に鳴るはずのセンサー音が鳴動せず。居室へ所在確認に行くとご本人様の姿がなく、施設内を探索するも発見できず。探索開始から約 45 分後に施設外で発見される。

(対処)

所在確認ができなかった時点から施設内外の探索を職員複数名で行う。警察にも捜索要請を行い、ご家族様への報告を行う。探索から約 45 分後、施設南西側の田んぼ内にいらっしゃるのを発見する。玄関を出た後、長年使用していない南西にある裏門を開け、畦道に出られたよう。すぐ近くにあった水路に落下されたのか下衣が濡れており、両膝に擦過傷がある。警察より救急車を要請され医大へ救急搬送となる。その後、擦過傷以外の大きな外傷等なく帰設される。

(原因)

昼食前後にご本人様が他ご利用者様の言動に対してイラつき、怒りをあらわにされていた。その後、突発的に“ここは嫌だ”と思われ、内側から自動では開閉しない正面玄関の戸を手動で開け、外に出られたと思われる。発見時、警察の方へ「ここは嫌だ」と仰られたとのこと。

(ご利用者様の状況)

受診からの帰設以降、強い痛みなどの訴えもなくお過ごしになられる。両膝の擦過傷も治癒する。

(再発防止に向けて)

- ・玄関に追加でチャイムを設置する(これまでもセンサーがあつたが、現在センサー、チャイムの 2 種類を使用)。
- ・ご本人様のユニット・居室の変更を行い、ご本人様が移動される範囲を限定する。
→居室の変更をお伝えすると納得され、変更以降混乱等なく使用しお過ごしになっている。
- ・離設に繋がるリスクがあるとして、廊下から繋がっている職員用の出入り口を再度使用中止とする。
- ・ご本人様を含め、離設される可能性の方の定期的な所在確認を、チェック表を用いて今後も継続して行う。
- ・ご本人様が精神的に不安定になられている時や感情的になられている時には、特にご様子に注意し、見守り・所在確認を強化する。
- ・GPS を使用していただく。

・事例④86 歳 男性 要介護 5

(内容)

昼食を終え休んでいただくため介助を行おうとすると、左頭頂部に 1～2 mm 大の出血跡あり。患部を確認するとその周辺に 5～7 cm 大の腫れができています。

(対処)

痛みの確認。患部を触れながら伺うと痛みの訴えあり。熱感あり。

バイタル(体温・血圧・心拍数・酸素飽和濃度)測定。異常なし。

呂律、握力の左右差、食事の際の特変等なし。

主治医へ報告し、様子観察の指示あり。

(原因)

ホール横の和室にてマットレスを準備し休んでいただいていた。マットレスの左側に壁がある位置で休まっていた。時々ご本人様が右側に両足を下ろされ、その反動で上半身が壁側に傾き頭部が壁に近づいていたこともあったため、その時に頭部を打たれた可能性あり。

(ご利用者様の状況)

患部の腫れは翌日以降で徐々に消失し、痛みの確認を行った際も訴えられず。その後もご様子の変化なし。

(再発防止に向けて)

- ・和室を使用する際には、マットレスと壁の間にクッションを使用する。
- ・居室対応に切り替え、様子観察を行うこととする。

(ご家族様の反応)

キーパーソンである長男様にご状態と主治医からの指示、今後の対策を報告しお詫びする。その後、長男様の奥様から複数回当施設へ連絡あり。連絡をしてこられる奥様ではなく、別のご家族様が当施設への対応に不満、不信感を持っているという話をされる。また、同様の内容を市役所へも報告される。

以前より不定期にご長男の奥様より当施設へ同様の連絡があり、場合によっては市への連絡もされていた。

ご利用者様自身は要介護 5 でいらっしゃるため、徐々に身体的機能の低下が見られているが、長男様を含めご家族様からいくつかご要望をいただいていた。対応可能な内容と当施設では対応が困難な内容があったため、ご家族内での不満に繋がっていた可能性も否定できない。

→当施設としては、可能な限りご家族様のご要望にお応えし、ご状態の変化等あれば速やかに詳細な報告や情報提供を行うことを心がけ対応している。

・事例⑤ 77 歳 女性 要介護 4

(内容)

ホールにて椅子に座り新聞や広告を見ていらしかったが、徐に立ち上がり移動しようとして転倒される。テーブルに沿って移動しようとして、隣の椅子の肘置きに掴まろうとされたようだがうまく掴まることができず転倒されたよう。

(対処)

介助にて椅子に座り直していただき、痛み・外傷の確認。いずれもなし。

バイタル(体温・血圧・心拍数・酸素飽和濃度)測定。異常なし。

主治医へ報告。様子観察の指示あり。

(原因)

読んでおられた新聞や広告を離れた場所にある棚に戻しに行こうとされたよう。

ご本人様は昨年左大腿骨骨折をされて以降痛みが強く、歩行もできない状態になっておられたが、そのご状態をご自身で忘れていらっしゃり移動しようとされたと思われる。

(ご利用者様の状況)

その後、打たれたと思われる患部や痛み出現等に注意していたが、特にご様子の変化なくお過ごしになられる。

(再発防止に向けて)

- ・ホール内の台所に職員がおり作業をしていたが、ご本人様が座られている位置が見えづらかった。今後は見えやすい席に座っていただき動きがあった際はすぐに対応できるようにする。
- ・台所での作業が必要な場合も、ホールの見守りを優先して行い、ホールを常に意識して作業を行うようにする。

○ヒヤリハット

- ・事例①89歳 男性 要介護1

(内容)

歩行時に見守りが必要な方が、お一人でホールに出てこられソファに座っていらっしゃる。

(対策)

センサーマットを設置していたが、鳴動せず。センサーマットの鳴動を確認すると鳴動したりしなかったりした。業者に確認してもらったところ、接触不良の可能性が考えられるとのこと。部品の交換等を行い、対応できるようにする。

- ・事例②92歳 女性 要介護3

(内容)

居室で休んでいらっしゃるところを訪室すると、ベッドがかなり高い状態で休んでいらっしゃる。頭部側もギャジアップされた状態となっている。ご本人様がベッド柵にかかっていたリモコンを操作された可能性あり。

(対策)

退室時、リモコンはご本人様の手の届かない所に置いておく。

5. 研修・委員会・訓練等

○研修

- ・12月に感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修、プライバシー保護の取り組みに関する研修を行いました。
- ・1月に倫理及び法令遵守に関する研修、ハラスメント防止に関する研修を行いました。

6. 今後の行事・研修等予定

○行事予定

2月：節分、誕生会

3月：桃の節句

○研修等予定

2月：身体拘束排除に関する研修

認知症及び認知症ケアに関する研修

BCP 机上訓練

3月：高齢者虐待防止に関する研修

7.意見交換

○事故報告にあった要介護5の方のご家族から不満や苦情ともいえる連絡があったようですが、そのご家族からはよく連絡がありますか。

→不定期にあります。一度連絡があると、複数回連絡が続く場合が多いです。時には市役所の方へも連絡をされます。

・そのようなご家族からの対応は大変かと思います。

→連絡をされる方は、精神的に不安定なご様子がある方の方です。ご本人様のご入居時に迎えに行った際もご自宅がかなり荒れていました。

・ご入居されてどれくらい経ちますか。

→3～4年になります。

・出雲市の方にも連絡がありありました。連絡が入ると、かなり長時間話をされます。今回連絡があった際には、ご本人様が柵のある場所に入れられている等のお話がありました。ただし、グループホームには柵のある部屋はないと伺っています。

→今後も出雲市と情報共有を行いながら、出来る限りの対応は行っていきます。

・ご家族からのご要望がいくつかあったとありますが、どのような内容ですか。

→まずは気候の良い時には散歩や外出支援を行ってほしいと仰られました。ご本人様のご状態が安定しており、気候の良い時に散歩は可能かと思いますが、要介護5でいらっしゃるため外出支援は困難かと思います。また、身体の拘縮が見られており、それに対してリハビリを行ってほしいとの要望もありました。当施設ではリハビリの専門職がいないため、生活支援の中でマッサージなどは可能ですが、定期的なリハビリは難しいとお伝えさせていただきました。

○お二人の方が入院されそのまま退所になられたようですが、お二人とも病院で受け入れていただけたのですか。

→お一人の方は、入院中も誤嚥性肺炎の再発を繰り返されていたようです。入院中の主治医よりグループホームへの帰設は困難と判断され、そのまま退所となられました。もうお一人は、誤嚥性肺炎になられる以前から飲食の摂取が困難な状態が続いていました。誤嚥性肺炎が快方に向かっても飲食の摂取が困難だとグループホームでは対応できない部分が多いため、療養病床に入院され退所となられました。

○事故報告やヒヤリハットの報告でセンサーマット絡みのものが複数ありますが、センサーマット

の不具合は多いですか。

→はい。長年使用しており、内部の機器の不具合や断線に繋がる状態になってしまう場合もある状態です。

・センサーマットを使用しているご利用者様は多いですか。

→はい。各ユニットに3～4名程いらっしゃいます。

○年末年始にかけてインフルエンザや新型コロナの感染者が増えましたが、感染者は出ていませんか。

→ご利用者様はいずれにも感染された方はいらっしゃいません。インフルエンザは、職員の感染が時期をずらして2名程ありました。

・予防接種は皆さん受けていらっしゃいますか。

→はい。ご利用者様、職員とも受けています。

○要介護2の方の離設の報告がありましたが、前回離設された方と同じ方ですか。

→はい。同じご利用者様です。

・カメラなどの設置はしていませんか。

→以前はありましたが、現在は使用していません。

・離設されるご利用者様は、部屋を変更して落ち着かれましたか。現在は怒るようなご様子は見られませんか。

→ユニットも変更し、移動範囲がより限定されましたがその点にご不満はお持ちでないようです。ただし、易怒的なご様子は現在も見られています。他ご利用者様の言動に対して怒りを物に当たり表現されるご様子が続いています。

・いつ(ご利用者様が)出たかわからないのがとても怖い状況かと思えます。

→ご本人様の所在確認を今後も継続していきます。今後のことを踏まえ、ご家族様に相談しGPSを使用させていただくこととなりました。専用の靴を使用し、靴に埋め込むタイプのものを使用します。

○新年に書初めをされていますが、要介護5の方もされましたか。

→いいえ。座る姿勢が取れ、出来る方のみが書かれました。

○お正月におせちのメニューが出たようですが、行事に合わせて食事内容も変わりますか。

→はい。その時々行事に沿ったメニューをお出しすることを心がけています。

・特に喜ばれるものなどありますか。

→昔から食べ慣れた料理はとても喜ばれます。おはぎは皆様大好きなご様子です。

・昔の方々は、お正月と言えばお餅を食べていらっしゃったかと思いますが、お正月にお餅を出されましたか。

→いいえ。お餅は喉に詰まらせるリスクが高いのでお出ししていません。その代わり、豆腐や大根を使用したお団子を作りぜんざいにしたりして時々お出ししています。

・ご利用者の皆様の年代にとっては、昔馴染みの食事がごちそうだと思うので、今後もそういった馴染みのある料理の提供をしてあげてほしいと思います。

→承知しました。ご利用者様目線で喜んでいただける料理を提供できるように心がけていきます。

以上